

書籍紹介

『正直の徒のイスラーム』

近藤洋平著、晃洋書房、2021年3月25日、5800円

本書は、2013年に著者が東京大学大学院人文社会系研究科に提出した博士学位請求論文の「イバード派イスラーム思想における共同体論の研究」を土台にして、それに提出時から今日までに研究し発表してきた論文などを取り込んだ、最新の研究成果を世に問うたものである。本書はイスラーム世界では少数派であるイバード派研究に特化した研究書としては、わが国で初めて出版されたものである。さらに本書は、イバード派の特徴的な思想を明らかにすると同時に、イスラーム思想研究書としての性格も十分に兼ね備えており、イバード派だけでなく、スンナ派やシーア派の思想も、合わせて理解できるような研究書となっている点に、わが国 のイスラーム理解に大きく貢献する有益性を持つものもある。

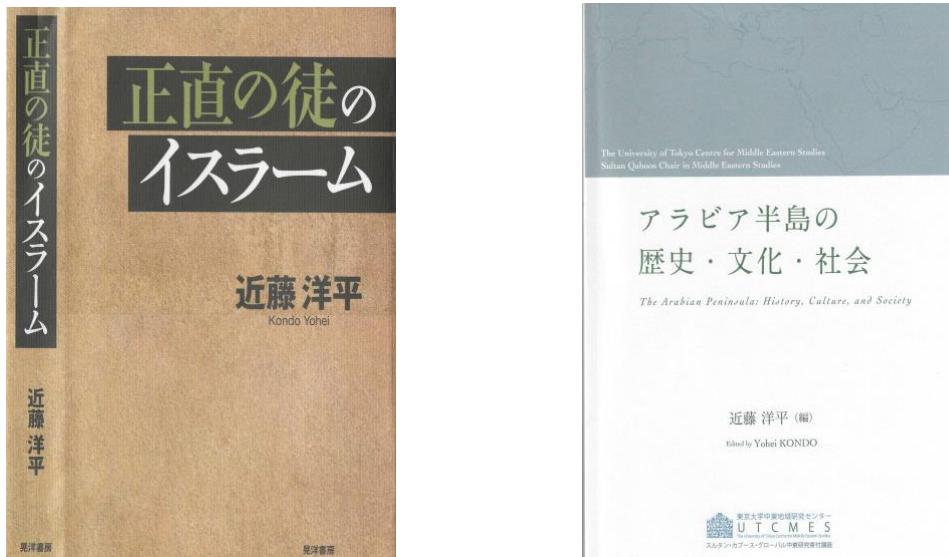
『正直の徒のイスラーム』という題名には、違和感を抱く読者もいるかと思われるが、これは著者のイバード派に対する深い理解を示すものもある。イバード派はイスラーム史初期のハワーリジュ派に源をもつ少数集団であるが、今日では、主としてオマーンの内陸部、アフリカのサハラ砂漠一帯などに存在している。イスラーム世界の政治・経済・文化の中心地域からは常に離れた地域に肩を寄せ合うようにして、稳健な宗教・社会制度を構成してきた。

中心地域から離れた少数派は、往々にして秘密主義で閉鎖的な集団を形成する傾向がある中で、イバード派は少数派であるがゆえに、他の宗派に対しても柔軟で寛容な姿勢を維持して、互いの相違点を受け入れてきた。まさにその姿は「正直の徒のイスラーム」そのものである。今日でもこの特質は、特にイバード派を国家の宗派とするオマーンなどではよく遵守されていて、現実に宗派間の派閥闘争などはほとんど見られない。

本書は「イバード派の特質を理解するために」で始まり、第1章「イバード派の形成と展開」、その後、イスラーム法上の意味、世界観、イスラーム共同体への加入問題、逸脱行為の問題、統治体制とイマーム論と続き、終章として「宗教社会集団としてのイバード派の特質」で完結する。

372ページの重厚な装丁で、文字フォントが小さいというきらいはあるものの、文章自体には優しい表現が用いられている。世界的にも誇れる優秀な研究書であり、我が国で最初に出版されたイバード派の解説書でもあるだけに、多くの人に読んでほしい良書である。さらに読者を得るために、「イバード派の世界—イス

ラーム少數派の原点」などとして、重要な点だけを読みやすく新書版にまとめたものも出版してほしい。



『アラビア半島の歴史・文化・社会』

近藤洋平編、東京大学中東地域研究センター、2021年1月30日

東京大学中東地域研究センターで2019年度に開催された公開セミナー「アラビア半島の歴史・文化・社会」で公開した研究内容を『アラビア半島の歴史・文化・社会』としてまとめ、2021年1月に刊行したもので、14回の公開講演会のうちから12回分の研究成果をまとめたものである。成果は、サウジアラビア、オマーン、イエメン、日本と中東といったテーマで12章にまとめられている。

本書は12人の著者が最新の資料とそれぞれの研究成果を駆使して、丁寧に検証した論文で構成されたもので、それぞれの特徴のある見解がみられる。データ類はごく最新のものではない場合もあるが、それぞれの地位に半ば普遍的な特徴や政治的文化的な特色などが解説されていて、現地へ赴く人々にとっても、日常的な情報を探る人にとっても、有益な知識が得られる貴重な研究報告書である。

本書は研究センターの成果論集であり、書店などで一般販売はされていないが、下記の電子版が公開されている。

東京大学中東地域研究センターウェブサイト
(<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/UTCMES/publish>)

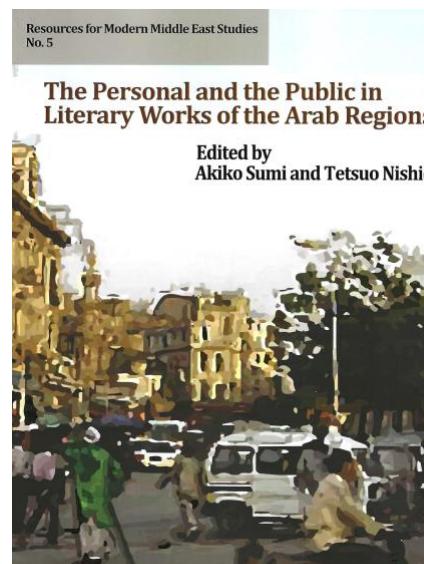
また希望者には代金・送料無料で、郵送もされる。東京大学中東地域研究センター ウェブサイト内「お問い合わせ」フォームから冊子希望と希望部数を伝えること。
(<https://park-ssl.itc.u-tokyo.ac.jp/UTCMES/contact>)

The Personal and the Public in Literary Works of the Arab Regions

Edited by Akiko Sumi and Tetsuo Nishio,
2021 The National Museum of Ethnology

本書は国立民族学博物館から Resources for Modern Middle East Studies No.5 として出版されたものであり、上記の『アラビア半島の歴・文化・社会』と同様に市販されていないが、入手の方法は下記に記す URL をご覧ください。編者の鷲見朗子は本書の紹介を「アラブ地域の詩や小説において、公的空間と私的空间がどのように扱われているのかを主題とした図書で、アラブ文学研究において著名な外国人研究者の方にも執筆陣として参加していました」と述べている。

本書では、9名のアラブ・中東文学の専門家がそれぞれ代表的な文学作品を取り上げて、その概要と作品が訴えるテーマとを的確に検討しているので、これらの文学作品を研究しようとする研究者には有益な視点を与えるものである。特にそれぞれの文末に掲載されている詳細な注や資料紹介は大いに役立つことと思われる。



◆pdf のリンク

No.5

https://drive.google.com/file/d/1SYRIqH4tjtctyiw5WmN13q0_YiodQfFG/view?usp=sharing

<https://drive.google.com/file/d/1SYRIqH4tjtctyiw5WmN13q0_YiodQfFG/view?usp=sharing>

◆e-book (E-PUB)のリンク

https://drive.google.com/file/d/10tWQoLqCMSg_ZkeuQCA3IsmyYqTCI0pN/view?usp=sharing

<https://drive.google.com/file/d/10tWQoLqCMSg_ZkeuQCA3IsmyYqTCI0pN/view?usp=sharing>